

# 華椿系画家の肖像画

特別展示室

期間：令和2年1月25日(土)～3月22日(日)

	作者	作品名	制作年	材質	員数	規格	備考
国宝	わたなべかざん 渡辺華山	たかみせんせきざう 鷹見泉石像	複製 天保8年(1837)	絹本着色	1	掛幅	東京国立博物館
重文	わたなべかざん 渡辺華山	いちかわべいあんざう 市河米庵像	複製 天保8年(1837)	絹本着色	1	掛幅	京都国立博物館
	わたなべかざん 渡辺華山	はやしだいざかみひつさししうざうほん 林大学頭述斎肖像稿本	天保年間?	紙本淡彩	1	掛幅	
	わたなべかざん 渡辺華山	さとういつさいざうこう(だい11) 佐藤一斎像稿(第二)	複製 文政年間	紙本淡彩	1	掛幅	東京国立博物館
	わたなべかざん 渡辺華山	さとういつさいざうこう(だい11) 佐藤一斎像稿(第十一)	複製 文政年間	紙本淡彩	1	掛幅	東京国立博物館
	わたなべかざん 渡辺華山	ほどろえいのざう 母堂栄之像	天保年間?	紙本淡彩	1	掛幅	
重美	わたなべかざん 渡辺華山	たちばなさいけんざうこう 立原翠軒像稿	文政6年(1823)頃	紙本淡彩	1	掛幅	
重美	わたなべかざん 渡辺華山	ヒボクラテス像	複製 天保11年(1840)	絹本着色	1	掛幅	九州国立博物館
	わたなべしうが 渡辺小華	ヒボクラテス像 三宅友信賛	安政6年(1859)	絹本着色	1	掛幅	
重文	つばき ちんざん 椿 椿山	わたなべかざんざう 渡辺華山像	複製 嘉永6年(1853)	絹本着色	1	掛幅	
	つばき ちんざん 椿 椿山	おむらていさいざう 吉村貞斎像	天保3年(1832)	絹本着色	1	掛幅	
	つばき ちんざん 椿 椿山	てんひらやましうざう 伝平山子龍像	天保4年(1833)	絹本着色	1	掛幅	
市指	つばき ちんざん 椿 椿山	ふくだはんこうざうこう 福田半香像稿	嘉永4年(1851)	紙本淡彩	1	掛幅	
	つばき ちんざん 椿 椿山	らうじよのざうこう 老女之像稿	江戸時代後期	紙本淡彩	1	掛幅	
	つばき ちんざん 椿 椿山	らうじよのざう がかうるい 老女之像 画稿類	江戸時代後期	紙本墨書	4	未装	
	つばき ちんざん 椿 椿山	わたなべたかざう 渡辺たか像	江戸時代後期	紙本淡彩	1	掛幅	
	あきのほいどう 浅野梅堂	あきつむぎもほん 芸妓図摸本	文久2年(1862)	紙本淡彩	1	掛幅	初公開
	つばき にざん 椿 二山	つばき ちんざんざう 椿 椿山像	明治時代	絹本着色	1	掛幅	
	つばき にざん 椿 二山	つばき ちんざんざうこう 椿 椿山像稿	明治時代	紙本墨書	1	未装	
	つばき にざん 椿 二山	のぐちゆうこくざう 野口幽谷像稿	明治31年頃	紙本淡彩	1	未装	
	つばき にざん 椿 二山	のぐちゆうこくざう 野口幽谷像	明治31年頃	紙本淡彩	1	未装	
	つばき にざん 椿 二山	のぐちゆうこくざう がかうるい 野口幽谷像 画稿類	明治31年頃	紙本淡彩	12	未装	
重美	わたなべかざん 渡辺華山	しんご ぎざう 壬午図稿	文政5年(1822)	紙本淡彩	1	冊子	
	わたなべかざん 渡辺華山	ていがいがこう 丁亥画稿	文政10年(1827)	紙本淡彩	1	冊子	
重美	わたなべかざん 渡辺華山	きやくざしうき 客坐掌記	天保9年(1838)	紙本淡彩	1	冊子	
	わたなべかざん 渡辺華山	きびがこう 突未画稿	文政6年(1823)	紙本淡彩	1	冊子	
重美	わたなべかざん 渡辺華山	きやくざしうき 客坐掌記	天保3年(1832)	紙本淡彩	1	冊子	
	わたなべよしざん 渡辺如山	てんかんろく 展観録	天保7年(1836)	紙本淡彩	1	冊子	個人蔵
	つばき ちんざん 椿 椿山	うんえんかかん 雲煙過眼	文政5年(1822)	紙本淡彩	1	冊子	
	つばき ちんざん 椿 椿山	しうざうが がかうるい 肖像画 画稿類	江戸時代後期	紙本淡彩	5	未装	
	つばき ちんざん 椿 椿山	わたなべかざんざう がかうるい 渡辺華山像 画稿類	天保4年(1833)	紙本淡彩	1	未装	
	つばき にざん 椿 二山	かがんろく 過眼録	明治29年(1896)	紙本淡彩	1	冊子	
	つばき にざん 椿 二山	かがんろく 過眼録	明治時代	紙本淡彩	2	冊子	

太字の作品は注目作品です

## ● 渡辺華山 寛政5年(1793)～天保12年(1841)

江戸麹町田原藩上屋敷に生まれました。絵は金子金陵から谷文晁につき、伝統的な東洋画の画風に西洋的な陰影・遠近画法を加えた作品に評価が高い。40歳で藩の江戸家老となり、藩財政の立て直しを進めながら、江戸の蘭学研究の中心にいました。「蛭社の獄」で高野長英らと共に投獄され、在所蟄居となり天保12年に田原池ノ原で自刃しました。

## ● 椿椿山 享和元年(1801)～嘉永7年(1854)

江戸に生まれ、幕府槍組同心。華山が最も信頼した弟子です。長沼流兵学を修め、また俳諧、笙、煎茶への造詣も深い。水彩画を思わず色調の花鳥画及び華山譲りの肖像画を得意としました。

## ● 渡辺小華 天保6年(1835)～明治20年(1887)

渡辺華山の二男。十三歳で椿椿山に入門し、花鳥画の技法を習得しました。長兄立が亡くなったため、渡辺家の家督を相続し、田原藩の家老職、廃藩後は参事の要職を勤めました。明治15年上京し、花鳥画には、独自の世界を築き、宮内庁(明治宮殿)に杉戸絵を残すなど、中央画壇での地位を確立し、東三河や遠州の作家に大きな影響を与え活躍を期待しましたが、53歳で病没しました。

## ● 椿二山 明治6・7年(1873・74)頃～明治39・40年(1906・07)

華山の孫で、椿山の弟子野口幽谷(1827～1898)に学びました。日本美術協会美術展覧会で、明治27年『棟花雙鶏図』で褒状一等を、同28年『池塘真趣図』で褒状二等、同29年『竹陰鬪鶏図』で褒状一等、同30年『蘆雁図』で褒状一等、同31年『鬪鶏図』で褒状一等、同33年『秋郊軍鶏図』で褒状三等、同35年『鶯寒残夢図』で褒状一等、同36年『梅花泛鳥図』で褒状一等を受賞している。号「二山」は幽谷から明治30年6月に与えられた。

## ● 渡辺如山 文化13年(1816)～天保8年(1837)

華山の末弟として江戸麹町に生まれました。兄華山の期待に応え、学問も書画もすぐれ、将来を期待されましたが、22歳で早世しました。14歳で椿椿山(1801～1854)に入門し、花鳥画には華山・椿山二人からの影響が見られます。

## ● 浅野梅堂 文化13年(1816)～明治13年(1880)

赤穂藩浅野家の分家筋の家に江戸飯田町で出生した。3500石の旗本の幕臣として活躍し、公職としては浦賀奉行(1847～)、京都町奉行、江戸町奉行(1962～)も務めている。文芸面では「漱芳閣書画記」の著者で書画の集蔵家として知られ、近世の書画文化を知るうえで重要な人物である。画ははじめ栗本翠庵に学び、のち椿椿山(1801～1854)に師事したとされる。はじめに師事した栗本は当時江戸